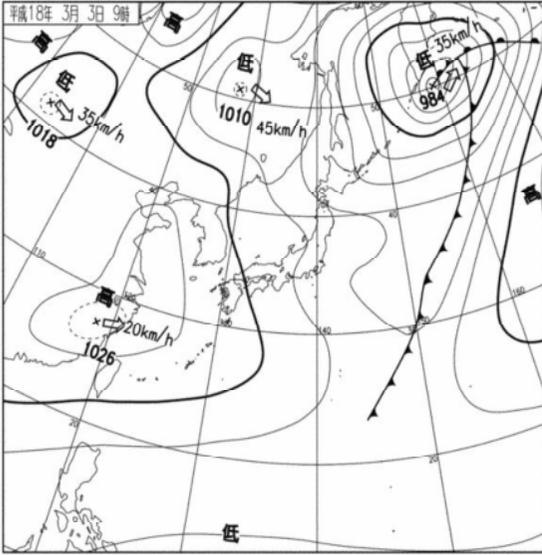


天気図の見方について

ヨットに乗るとき、風が一番気になります。みなさんは天気図や衛星写真、レーダー画像もご覧になっていることと思います。天気図を見れば、おおよその風力・風向、降雨などが予想できます。今回は天気図の見方を解説します。



風向を知る

高気圧の中では、風は時計回りに回りながら上空から地上に吹き降りています。一方、**低気圧**の中では、風は反時計回りに回りながら、地上から上空に吹き上っています。また、海上では風はほぼ等圧線に平行に吹きますが、陸上では、およそ30度くらい角度を持って吹きます。高気圧なら等圧線から30度吹き出ますし、低気圧なら30度吹き込みます。私たちは海上でヨットに乗るので、ほぼ等圧線の方向に吹いていると考えて風向を予想します。左図の鹿児島は高気圧の圏内です。等圧線はほぼ南北に立っています。時計回りに吹きますので、北または北北西と予想できます。北海道の稚内

附近はどうでしょう。低気圧圏内です。等圧線は南北に立っています。風は反時計回りに吹きますので、ここも北風と予想されます。

風力を知る

風速は、等圧線の混み具合(幅)で分かります。鹿児島は等圧線の幅が広いのでヨットにはちょうど良い風が吹くと思われます。一方、北海道は等圧線がずいぶん混み合っています。7、8メートル以上は吹くと予想されます。風速については、気象台から出される風速予報もしっかりチェックしてください。

前線に注意しましょう

天気図の千島列島沖には低気圧から前線が出ています。前線には、温暖前線、寒冷前線、閉塞前線、停滞前線などがあります。前線上は暖気と寒気がぶつかり合い不安定な気流が生まれるので注意が必要です。中でも、特に寒冷前線に注意しなければいけません。ではどうしてでしょうか。下図で説明します。



しとしと
雨
温暖前線

温暖前線では冷気の上に暖気がゆっくりかぶさるように上昇していきます。比較的幅をもって雨が降り、風の変化は穏やかです。

しかし、寒冷前線では、暖気を押し上げるように冷気が入ってきます。狭い前線上で激しい上昇気流が生まれます。突風が吹き、場合によっては落雷も起こります。

寒冷前線が接近しているときにはヨットの出港は控えましょう。出ている艇は早めに着岸するように心がけましょう。



突風
雷雨
寒冷前線